

2020 年度秋セメスター 授業評価結果

1. 実施率

表 1 授業評価実施率

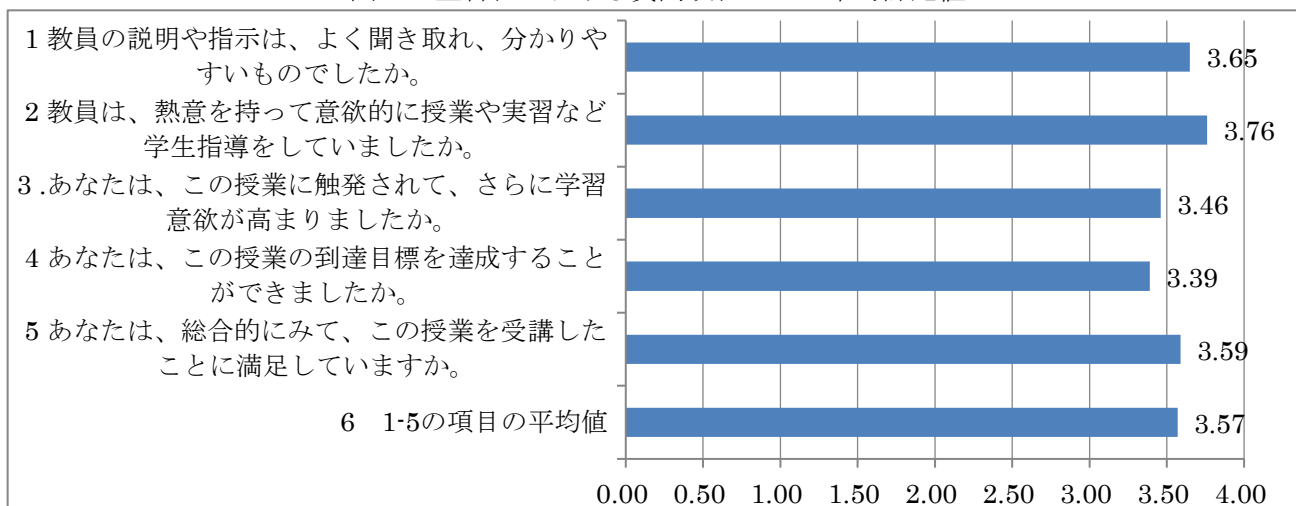
	対象科目数	実施科目数	実施率 (20 春セメ実施率)
共通科目	52	52	100% (100%)
看護学部	42	42	100% (100%)
社会福祉学部	104	104	100% (100%)
リハビリテーション学部	77	77	100% (100%)
計	275	275	100% (100%)

2020 年度春セメ同様秋セメも COVID-19 感染拡大のため、遠隔授業や対面と遠隔を組み合わせた授業となり、実習が延期となる中で学生・教員共に柔軟に進めることが求められた。大変な状況ではあったが、全科目で予定通り授業評価が実施された。少ない質問項目ではあるが、実施科目数全体から課題が明確になっている。到達目標や学習への意欲化、また回答率など明らかとなった課題を整理し、今後の改善・向上を目指さねばならない。

2. 授業評価結果

評価票の評価について「そう思う」(4 点)～「そう思わない」(1 点)と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した(図 1～図 5)

図 1 全科目における質問項目ごとの平均評定値



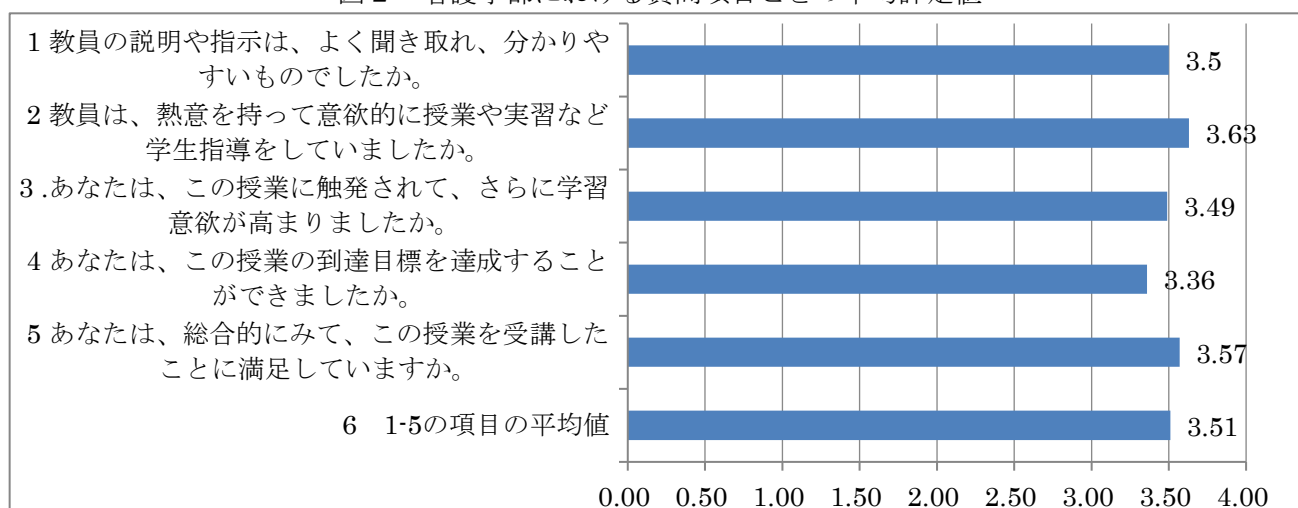
秋セメ授業評価平均値比較

問	2019 年度	2020 年度
1	3.57	3.65
2	3.64	3.76
3	3.51	3.46
4	3.44	3.39
5	3.56	3.59

表にあるとおり、教員側の教授方法や姿勢など質問 1・2 に関しては昨年度より大きく向上し、コロナ禍ではあっても教員が一様に努力したことが垣間見える。

しかし、学生自身の学修満足度に関わる意欲化や到達目標達成に関しては、昨年を下回るものとなった。遠隔授業によるこの点の課題は本年度春セメにも明らかとなった点だが、この点について早急に教員間で問題を共有し、学修満足度を高められるように改善・向上に努めなければならない。この 2 点について評価が高かった授業などを例に、担当教員の授業方法や工夫をもとに研修する機会を設けて、全学的に改善を図るようにする。また、学生 FD スタッフを中心に学生の声を直接聞く機会を一層重視して、意欲化と到達目標達成について考えていくこととする。

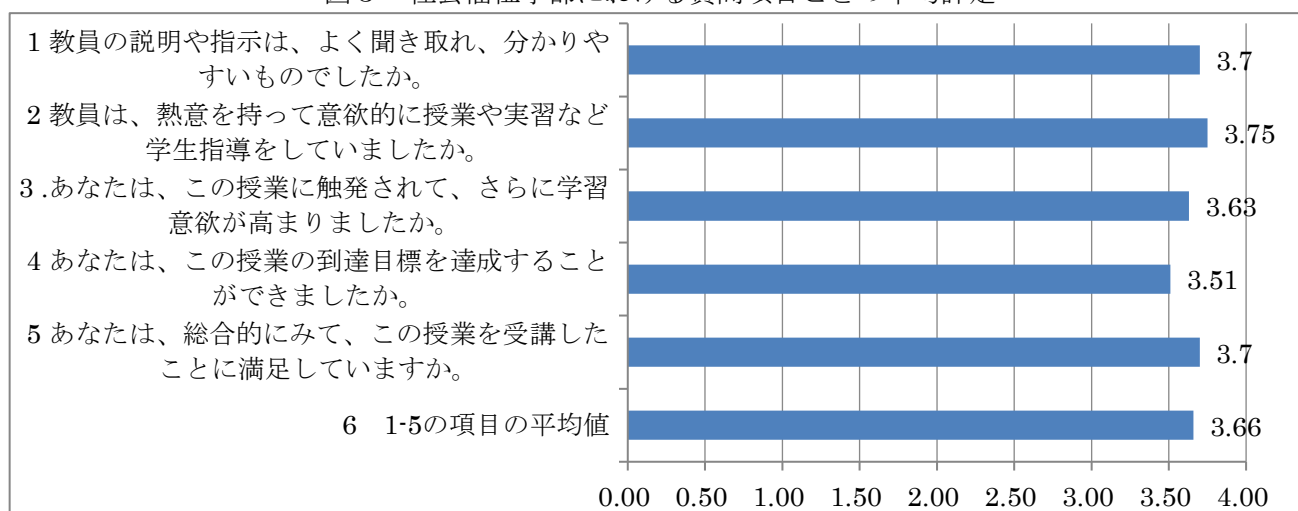
図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値



看護学部 FD 委員会のコメント

2020 年度秋セメスターは、対面とオンラインのハイブリットによる授業展開であった。前年度と比較すると全項目とも低下している。低下が顕著な項目は、毎回最低平均点を示す Q4 の学修目標の到達度についてであった。コロナ禍によりグループワークや討議・プレゼンの実施が難しく、また評価もレポートが多くなったことから学生が自己の学修到達を実感しにくいのではないかと考えられる。今後は、到達目標と学修内容との関連を意識した授業設計や内容、教授方法を再考する必要がある。オンラインなどの新たな授業形態が続くなかで、学部の大人数授業においても学生個々に学修目標の到達を可能にする授業について学部全体で検討していきたい。

図3 社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定



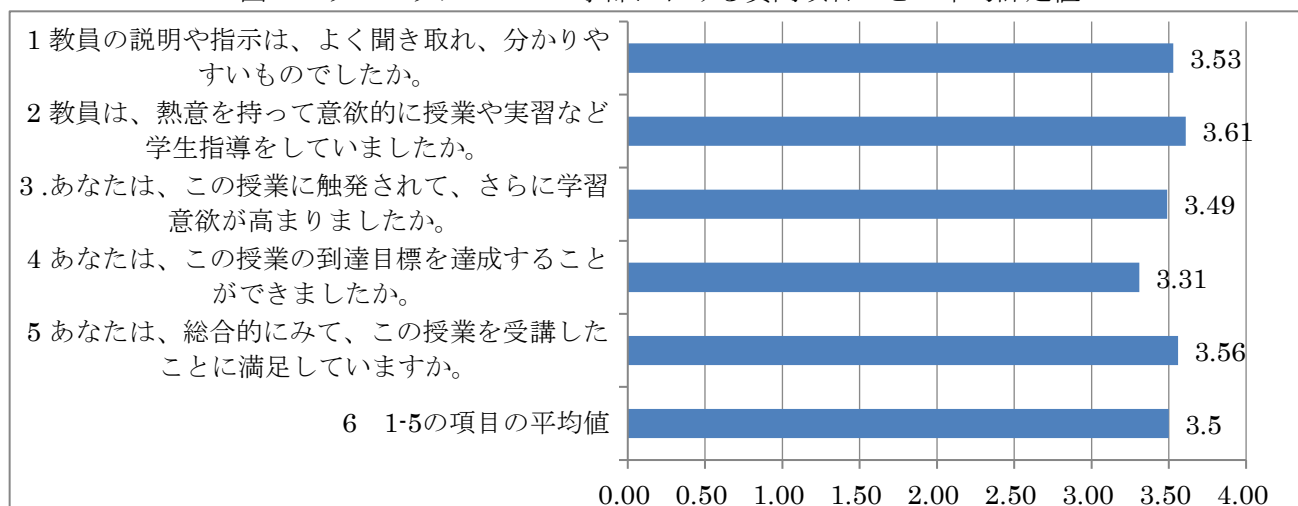
社会福祉学部 FD 委員会のコメント

秋セメ授業評価平均値比較

問	2019 年度	2020 年度
1	3.63	3.70
2	3.70	3.75
3	3.58	3.63
4	3.48	3.51
5	3.63	3.70

コロナ禍での授業や実習は教員・学生双方にとって非常に大変さはあったが、上の表のとおり全項目において昨年度より向上している。特に、問1と5は大きく向上している。遠隔の授業もあったが、対面での授業で感染拡大防止に配慮しながら「主体的対話的、深い学び」が得られるアクティブラーニングを推進してきたことが評価されているのだろう。今後も学生の学修満足度が高い授業を目指して、研鑽に励みたい。

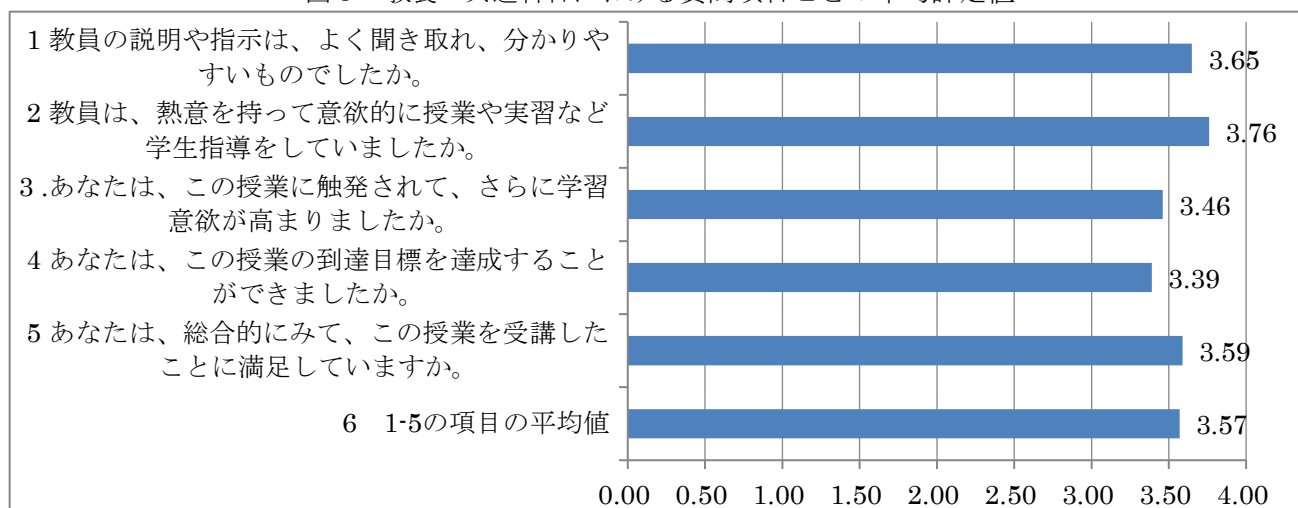
図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値



リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

2020 年度の秋セメスターでは、対面を主として、オンラインとのハイブリットの講義形態であった。春セメスターと同じく、到達目標を達成できたかの問いで評定値が低い結果となった。到達できたか否かは、途中の形成的評価がどのように与えられるかが重要であると言われている。学生の意見では、小テストが達成度を計るのに良いとの意見が出ている。しかし、“知っている、理解している”の評価に小テストは向いているが、“行える”が学習目標とする科目には不向きである。今後は、医療職の教育目標に掲げられる“行える”の学習目標に対しての、学習過程での形成的評価をどのように学生に提供していくかを検討していく必要があると考える。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

質問 1、2、5 については、2019 年度に比べ、点数が上がっていました。しかしながら、質問 3 と 4 については、点数が下がっていました。コロナ禍の影響も多少あったかと思いますが、学習意欲の向上が起こりにくく、また授業の到達目標が見えにくかったのかもしれないのではと推測しています。教員の授業については高く評価されていますので、さらなる改善として、授業設計やシラバス作成がよりわかりやすくなるよう進めて行きます。